

東骨勤務時の思い出は折々、数限りなくあります。

私は昭和32年12月の入社で、定年退職は平成4年4月、在籍期間は34年間です。終戦から復興と云う歩みの時代に26才で東京鐵骨橋梁に入社して働けたことは良かったと実感しています。

溶接の仕事は厳しく、暑い夏の盛りにボックスの中に入って、防じんマスク、ヘルメットを付けての作業は大変過酷でもありましたが、それなりに遣り甲斐もありました。要領よく生きていると見える人も目につきましたが…。

しかし、昼休みにはテニスを楽しみ、昭和57年7月には取手地区企業組織（東骨、キヤノン、キリンビール、他）の球技大会・テニスの部に出場し、『東骨テニス部、ここにあり！』を表明しました。掲載の写真は、その「球技大会・テニスの部」に参加された方々です。



更に忘れられない思い出は、生産性本部の研修に参加させて頂いた事です。

昭和54年12月、代々木オリンピック選手宿舎にて『企業組織の中での青年の役割』というのに参加、続いて昭和56年9月には静岡県函南で開催された生産性本部研修に組合から2名と会社から2名で参加しました。『81 生産性フォーラム』という研修で、私は会社を代表しての参加でした。

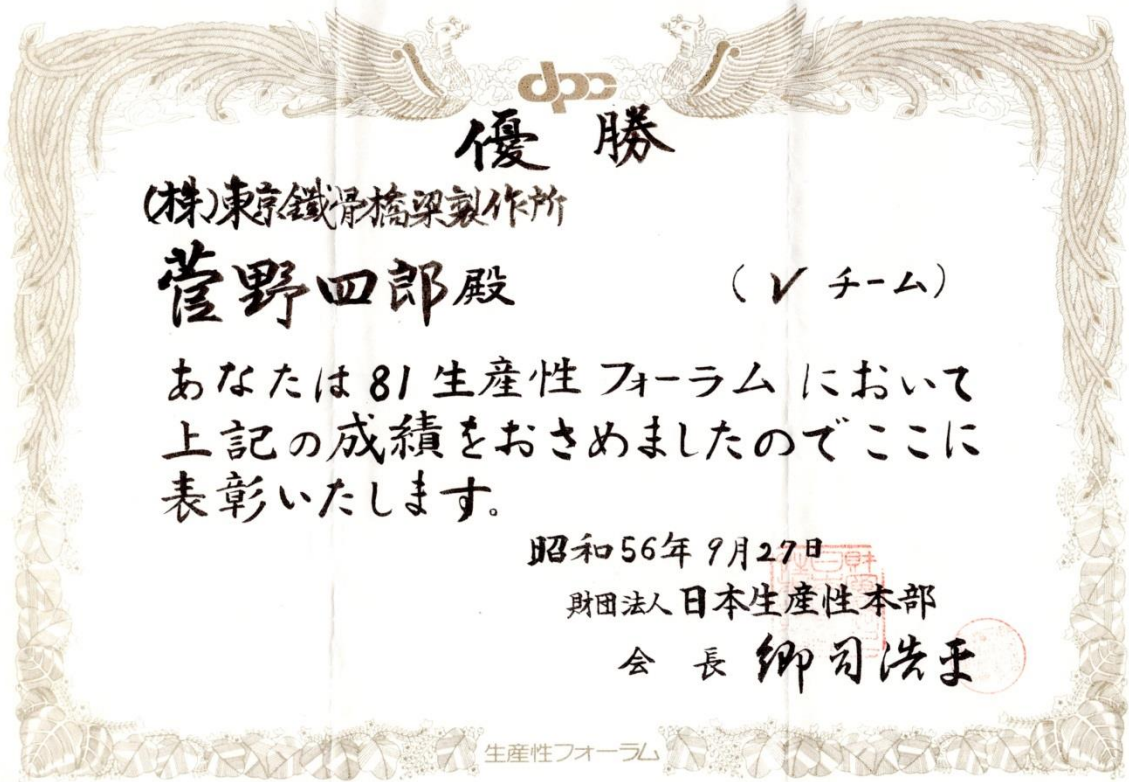
この時は他の企業からの参加者を入れて4名が一組に編成され、夜の12時過ぎまで個々の現在抱えている問題などについて話し合うなど、仕事を離れての良い体験をさせて頂きました。

最終日はディベートを行い、討論の議題は忘れましたが私のチームが優勝を収めるも他の参加された方に悪く厚かましいように感じて会社には報告できませんでした…。

しかし、「今なら、もういいでしょう」ということで、ここに掲載するのがその折りの表彰状のコピーと参加者の写真です。









また、昭和49年、職場の後輩が結婚すると云うことで仲人を依頼されました。社内結婚なら他の方に仲人をお願いするようにと勧めたのですが、是非にと云うことでしたのでお受けし仲人を務めました。これも忘れられない思い出のひとつでもあります。

入社した以上は人に恥じない務めを心がけて来ましたし、仕事の出来る喜びに感謝して生活を送ることが出来たと思っています。

お蔭様で、二人の息子たちも上は中央大、下は早稲田で学ばせることが出来ました。上の息子は上場企業に勤めて度々海外に出かけるなどしており、下の息子は警察官僚として働いています。

定年後間もなく25年が経過し、年齢も84歳を迎えるなか、家族が皆元気で暮らせる事に感謝しています。

健康維持のため、週2回のテニスと週末セカンドハウスに出かけて一人暮らしでの野菜作り、そして季節ごとに数日は八幡平に滞在して温泉三昧、更に2年前よりボケ防止を兼ねて68～69年前の高校時代を思い出して古文の学習をしています。今は鴨長明の「方丈記」を読んでおります。『ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず』から続く人生の無常観を心の奥底まで届かせる文体が素晴らしい。昔はこんな魅力に惹かれる時間的ゆとりは持てませんでしたが、今はとても充実した日々を生きています。

平成28年3月25日

菅野 四郎